



「成長の声」が聞こえる学校

校長 山岸 英 紀

学期末にあたり、最近の子供たちの声から思うことを少し書きたいと思います。

一つ目は、水泳の授業からです。プールサイドで見ていると、「できた!」「すごい!」「いけるぞ!」「いいよ!」と友達を一生懸命応援する声が聞こえてきました。別の日には、「ここまでもぐれた!」「けのびでできた!」「100m 泳ぐのが夢や!」などと報告してくれる子供たちもありました。このような声を聞くと、子供たちは毎時間たくさんのことを学んでいることが分かり、本当にうれしくなります。

最近は熱中症指数とのにらめっこが続き、入れない日があります。また、様々な理由で水泳が学校から離れつつあります。そんな時代だと理解するしかないのかもしれませんが、楽しみに登校する子供たちがたくさんいて、多くの学びがあることを考えると、やはり子供たちの夏にプールは欠かせないと思うのです。本校は今年も保護者の皆様のご協力を得て、夏休みのプール開放を計画しています。子供たちの学びや笑顔のため、可能な限り実施したいと考えています。

二つ目は、県選手権大会を終えた次の朝、玄関で後期課程の生徒がかけてくれた「応援ありがとうございました。」という声です。大会期間中いくつかの種目を応援することができました。柔道では個人戦で2年連続優勝、ソフトテニスでは団体で3位に入賞を果たすなど、今年も大きな成果がみられました。勝利した安堵の笑顔あり、敗れて流す悔し涙あり、それぞれの場面に心打たれました。きっと勝つことから負けることからたくさんの学びがあったものと思います。

「部活動」は、地域移行から地域展開へ進み、子供たちの選択肢は広がって活動する団体やクラブも様々になってきています。ですが、スポーツ、文化的な活動を問わず、一つのことに打ち込むことの大切さは変わりません。自ら決めたことに真摯に向き合い時間をかけて自分を磨き、高めてほしいと願っています。玄関でかけてくれた感謝の言葉には、彼らが3年間地道に積み上げてきたものの大きさが感じられ、うれしくなりました。

水泳や「部活動」に限らず、学校を取り巻く環境は大きく変化し続けています。様々な場面で、これまでの常識に捉われない見方や考え方が必要になってきています。しかし、どれだけ環境や考え方が変わっても、子供たちの「成長の声」がいつも聞こえる学校であることを大切にしたいと考えています。

最後に「先生、明日またね。」これは、帰り際にある子がかけてくれた言葉です。2学期も、子供たちがこんな言葉で一日を終われる学校であることを願っています。

1学期の教育活動にご協力ありがとうございました。

